

札幌型ものづくり開発推進事業成果事例紹介

- Q1** 開発事業はいつ頃から、どのようなことを背景として、何を目的に始められたのでしょうか。
- Q2** 開発事業において困難だったことと、その困難を乗り越えたパートナーシップや創意工夫について教えてください。
- Q3** 開発事業の成果はどのように展開される計画でしょうか。市場規模や売り込み先の見込み、展開方法などを教えてください。

⑤カボチャ乱切り加工のライン化

シンセメック株式会社

Q1 開発事業の目的・背景

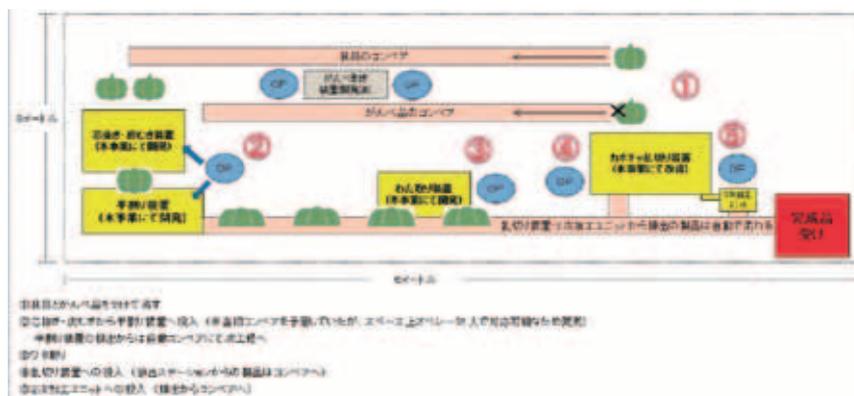
カボチャの乱切り加工は人手作業に頼っており、規格外品の発生、工員不足による生産計画の遅れ、作業の安全面等に長年悩まされてきました。このような道内加工業者のニーズを受け、平成18年より乱切り装置の開発を始め、試作を経て商品化・販売に成功しました。しかし、装置の納入先企業から乱切り装置の高い処理能力に合わせた「下処理」設備への新たなニーズが生まれ、下処理を含めた「ライン化」を目的として研究を開始しました。

Q2 開発事業の経過

ライン化にあたって、工程毎の加工で必要になる機械がどのようなものか検討を重ねました。すでに実証試験が完了している機械、新たに構想からはじめなければならない機械などが出てきました。機械の仕様・性能などは一部カット業者からの提案も受けて決めましたが、ほとんどは当社内で決定しました。その結果、想定外のサイズのカボチャ使用、堅い海外産カボチャによる刃物欠損、半割りカット時にカボチャが欠ける現象等々が発生し、新たな構想での改造調整、そして再設計を余儀なくされました。いずれの問題も、当社特有の機械加工部門との連携によるスピーディーな改造作業、そしてカボチャカット事業者のカットライへの協力により無事難関をクリアすることが出来ました。

Q3 事業展開

中規模以上の通年でカボチャの乱切り加工を行っている企業へ売込みを期待しております。弊社では平成25年夏に「フードマシセンター」が竣工します。この工場は、食品加工向けの装置製作に特化した工場です。本事業にて製作したラインを常設、見学等を広く受け入れ販売につなげたいと考えております。また、来年度（平成25年度）もFOOMA JAPANへの出展を決定しております。



会社情報

会社名／シンセメック株式会社
住 所／札幌市西区八軒10条西12丁目1番30号
TEL／0133-75-6600 FAX／0133-75-6611
代表者／代表取締役 松本 英二
創 立／1950(S25)年11月創業・1981(S56)年法人化
従業員数／48名
URL／<http://www.synthemec.co.jp/>